

日本の心のふるさと 1,300年の歴史・伝統が 受け継がれた悠久の歴史の地



古代6～8世紀の東アジア諸国（現在の中国や韓国）との交流が最も華やかだった頃の本物の文化遺産が、先人のたゆまぬ努力と優秀な保存技術によって大切に残されている。中でも、日本の木造建築技術は、高度な文化的・芸術的水準にあり、以降建築の発展に大きな影響を与えており、自然・歴史・文化が融合した世界に誇れる観光地となっている。



携帯端末による観光地案内（東大寺参道）

外国人訪問者数

JNTO訪日外客訪問地調査より推計

平成10年(1998)	16.8万人
平成14年(2002)	25.1万人
平成15年(2003)	25.0万人
平成16年(2004)	28.8万人
平成17年(2005)	32.3万人

魅力

自然

歴史・文化

体験・イベント

まるごと世界遺産のまち、奈良

世界文化遺産「古都奈良の文化財」（東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡）に抱かれたまち。

約1,200頭の愛らしい鹿がお迎え

奈良の鹿は、千年以上も前からこの地に生息し、人々に親しまれている。国の天然記念物にも指定されている。

四季とりどりの特色あるイベント

豊かな自然と四季がおりなす風景の中、その季節にしか味わえない祭りやイベントの数々をNPO法人や地元ボランティア、行政が一体となって各種イベントを展開しており、多くの集客につながっている。
なら燈花会（とうかえ）、バサラ祭り、ライトアッププロムナードなど。

取組

案内・情報提供

景観保全・環境整備

木造世界遺産観光フォーラムの開催

木造世界遺産を有する市町村が連携して、欧米で日本の木造建築の魅力を紹介し、誘客を図る取り組みを実施。H17年度：フランス、H18年度：アメリカ、H19年度：オーストラリア（予定）



大池から薬師寺を望む

古都の景観を守る取り組み

都市計画などに基づき、建築物の高さを制限するなど、市民生活との調和を図りつつ、伝統的な古都の景観を創出し、奈良らしさを演出。



興福寺と五重塔



東大寺の正門である南大門



なら燈花会



フォーラム開催風景